

患者、家族ら抱腹絶倒



患者を楽しませた柳家三之助さんの院内落語会
11日、製鉄記念室蘭病院

院内は笑い一色

製鉄記念室蘭病院（室蘭市知利別町、松木高雪院長）の第3回院内落語会が11日夜、同院1階フウンジで開かれた。落語協会所属の真打ち・柳家三之助さんの巧みな話芸に、入院患者や家族、地域住民らに明るい笑い声が広がった。（山田晃司）

三之助さんは1995年（平成7年）に十代目柳家小三治に入門し、2010年（平成22年）3月に真打ちに昇進した。「今まで寄席や落語を見たことのない人にも落語の楽しさを伝えよう」と、全国各地で独演会を実施。製鉄記念室蘭病院では昨年の6月、10月に続いて開いた。三之助さんは集まった約60人を前に得意演目の一つである「青菜」を披露した。植木職人

製鉄記念室蘭病院

が仕事場の屋敷の旦那の粋な振る舞いに感激。長屋に戻って、妻や仲間に対して旦那のまねをしてみせる滑稽話を軽妙に演じた。旦那におしゃくされた酒をつまそうに目を細めながら飲んだり、コイの洗いをのどを鳴らして頬張るしぐさを、扇子を使いながら表現。最後に見事「落ち」が決まると、来場者から一斉に拍手が沸き上がり、会場は笑顔一色に包まれた。

柳家三之助さん「落語会」